街の香りをお届けする地域交流デザインマガジン
エヴァシンク
Evahthink©
http://www.growbyglow.jp/
通巻
全国版
vol.45
September
2020

禅の言葉

一華開五葉（いっけごようをひらく）

無垢な心には
いつか果実がみのる
一輪の花が美しい五弁の花
びらを開き、やがて立派
な果実をみのらせる・・。

『大円鏡智（だいえんきょうち）』
生まれながらにして持つ
無垢でありのままの心

『平等性智（びょうどうしょうち）』
周りのすべてのものが
仏性を有し
平等であると知る心

『妙観察智（みょうかんさつち）』
平等の中にも
それぞれの個があり
違いがあると知る心

『成所作智（じょうしょさち）』
仏の心と同じく
他を思いやり
大切にする心

『法界体性智（ほっかいたいしょうち）』
身の周りにある
すべてのものは
仏のあらわれと知る心

五智に目覚めることは、
すなわち仏性に目覚め、
仏に近づくことです。
いくつ年を重ねても
純粋な心を忘れず、
小さくても美しい花を
咲かせましょう。

evahthink（エヴァシンク）
vol.45 September 2020

● 目 次 ●

02 今回の表紙紹介　竹村育貴さん
03 リニューアルにあたって
04 全国知事リレー対談の歴史（2008-2011）
06 全国知事リレー対談の歴史（2012-2017）
08 地域活性化と災害支援「黄金海道」
11 「黄金海道」メンバーが語る
13 全国取材30年の歴史から
14 書斎システム「朱」とは／
会員第１号黒田敦史氏インタビュー
16 読者プレゼント
17 編集室より／定期購読者募集

● 情報を募集しています ●

1）SDGs 地域活性化に関して
取材して欲しい人・組織・プロジェクト等
2）是非取り上げて欲しい、地域の食
3）自治体としての課題とPR
4）誌面に関するご感想やご意見等ありましたら
ご遠慮なくご連絡下さい。

《問合せ＆送り先》evahthink 編集室　info@growbyglow.jp

今回の表紙紹介

デザインを見た瞬間、温かくて包み込むような優しさを感じた事から、竹村さんにお願いしました。素晴らしい経験をお持ちの方ですが、ここで、いくつか質問したいと思います。竹村さん、宜しくお願いします。

有馬　この表紙デザインは、何をイメージされて描かれたものでしょうか？

竹村　「evahthink」、「Guardian72」共に「日の出」を描きました。制作中は日没とも見える、はっきりしない美しい時間のイメージを大切にしました。

有馬　ありがとうございます！素敵です!!

有馬　ところで、何が切っ掛けでこの道に進もうと考えられましたか？

竹村　父親が筆描きの看板職人であったことが切っ掛けです。自分の手で価値を生み出して生活を営むことが幼い頃から身近にありました。

有馬　そうなんですね。筆書き看板の職人さんだったのですね。

有馬　では、何もないところに、新たな何かを描くというこの醍醐味はどこでしょうか？

竹村　存在しないものを生み出すところです。制作では、最初のイメージから完成までに出てくる「ぶれ」を許容していく過程も好きです。

有馬　「ぶれ」を許容していく過程とは素敵ですね。

有馬　今の日本を色で表現すると何色ですか？

竹村　七色です。大変な世相であったりしますが、日本の自然と文化が持つ豊かな色彩は不偏なものだと思っています。

有馬　『自然と文化がもつ豊かな色彩』なんとも素敵な言葉でしょう。

有馬　では、最後に自分を一言一色で描くとすれば、どんな色と言葉でしょうか？

竹村　色は「青」で、言葉は「熱」です。冷たいように見えて、本当は完全燃焼の火の様な。

有馬　素晴らしい表現ですね。言葉は『熱』何事も、一人の熱い想いから!!と私は思っています。竹村さん、ありがとうございました。

CREATOR
竹村 育貴（たけむら なるき）さん

1981年秋田県大仙市生まれ。盛岡市在住。岩手大学教育学部卒業後、家業の屋外広告業でデザインを開始。その後、専門学校にてグラフィックデザイナーの育成から学校法人の経営企画まで担当。現在は、株式会社カルティブ（横浜市）にてビジネスデザイナー／グラフィックデザイナーとして、地域・企業の魅力づくりを経営戦略からデザインまでをトータルに支援する傍ら、作家として作品発表も行う。（一社）日本地域色協会代表理事、岩手デザイナー協会会長、（公社）日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）東北ブロック運営委員

www.naruking.com

●リニューアルにあたって●

お待たせしました!!

東日本大震災発生の翌年に発行して以来、8年目を迎えやっとこの日を迎える事が出来ました事に心より感謝申し上げます。多くの読者及び各自治体職員の方々からのご連絡を頂く中で、一日も早くと思っておりました。

平成23年3月東日本大震災発生により、エヴァシンクの読者はじめ、多くの自治体職員の方々が被災されました。また、その後は毎年発生する豪雨災害。更には、平成28年4月14日の余震から16日の最大震度7の本震発生し熊本城も大きく被災。平成30年6月には大阪北部地震、同年9月には北海道胆振東部地震が発生しました。

その後も、巨大台風はじめ数々の自然災害に見舞われ、そして今年に入り、世界全人類が新型コロナウイルス感染という、眼に見えない敵と闘う事となりました。私達編集チームは東日本大震災後、同年3月26日に、行政の地域を越えて共に地域観光に取組んでいた「黄金海道」石巻・女川・南三陸・気仙沼を訪れた時に、この日本に暮らすという事は自然災害と共存する必要があり、共存するという事は、地域活性化と災害支援は両輪でなければならない。この果てしない大災害と、これから更に発生するであろう大規模災害対策として、新たな仕組を考え、私達は、地域情報を伝える事と共に、災害支援の仕組『ガーディアン72災害支援プロジェクト』にシフトを移し、両輪で仕組構築に努めておりました。

そのような状況の中でも、知事リレー対談は継続となり20名以上の知事との対談をさせて頂くという御縁に恵まれる中、時代も平成から令和へと元号も変わりました。

新たな時代を迎え、多くの方々とのご支援頂く中で、全国の地方自治体が抱える課題を解決する為に、新たな仕組が誕生し実施する為に、地域活性化事業GROW by GLOW株式会社を設立し、『ガーディアン72災害支援プロジェクト』を推進の為に設立した、株式会社ミューチュアル・エイド・セオリーとの両輪で動き出す体制準備が整いました。

そして、この度の復活発行は、社会状況が大きく変化する中で、この状況をいかにプラスと捉え生きて行くかを、様々な視点から多くの方々のご紹介と共に、お伝えさせて頂ければと思っております。

現在、世界中の人類が、新型コロナ感染という同じ条件の環境下に存在しています。この状況を前向きに捉え、私達エヴァシンク編集チームは、皆さんに価値ある情報として発信するために努めていきたいと考え、制作に取組んでいきます。

新しくなった情報誌エヴァシンクと創刊Guardian 72をご愛読頂けますよう、心よりお願い申し上げます。

令和２年９月１日

情報誌エヴァシンク＆
Guardian 72編集長

有馬朱美

エヴァプレス　エヴァシンク

全国知事リレー対談の歴史 2008▶2011

御縁頂き知事リレー対談がスタートして 43 名の方々との対談が実現しました。どなたとの対談も楽しく、笑い有り涙有り…美味しい地域の特品を頂きながらの貴重な時間でした。地域の宝達からスタートして、東日本大震災を切っ掛けに、防災の方にも対談内容を拡げながら、トップとしての考えを伺わせて頂きました。全誌面で一番の人気コーナーが知事リレー対談でした。これから、いよいよ再スタートです。次号に登場される知事はどなたか楽しみにして下さいね。

リレー対談は 1 冊の本に再編集し、配布した。

知事対談映像アーカイブ
エヴァシンク
チャンネルも
ご覧ください

2008年 11月発刊 EvahPress
何事も、前例がないと避けたくなるのはよくある話。しかし、新潟県泉田知事は一番でないと!!との考えてお引き受け頂きました。ここからスタートです。現在は衆議院議員としてご活躍中です。

1 新潟県知事 泉田裕彦 氏

2009年 7月発刊 EvahPress
当時、全国知事会長だった京都府山田知事。歴史ある府庁での取材は、まるでロケ中のような感じでした。山田知事からのご紹介が、岐阜県古田知事。なんと、昭和40年岐阜国体の最終聖火ランナーとして活躍された姿のパネルが印象的でした。

6 京都府知事 山田啓二 氏

2009年 発刊 EvahPress
鳥取県平井知事から、携帯で次の知事に電話がスタートしました。初の電話でバトンタッチは宮城県村井知事でした。村井知事とは、防衛大学時代の事や、松下政経塾についてお話を伺いました。

2 鳥取県知事 平井 伸治 氏

3 宮城県知事 村井 嘉浩 氏

2009年6月発刊 EvahPress
佐賀県古川知事とは、いちごは上から食べるか、下から食べるか?との話題が印象に残っています。今は、衆議院議員として活躍しyoutube「HeyIYASU 古川康あなたのお役に立ちます」が人気です。徳島県飯泉知事とは、徳島県の竹輪談話に花が咲き、食べ方をしっかりと教えて頂きました。現在は、全国知事会会長に就任。

4 佐賀県知事 古川 康氏

5 徳島県知事 飯泉嘉門 氏

2009年8月発刊 EvahPress
北海道高橋知事は、なんと足を骨折された中で対談場所にお越し頂きました。遠距離夫婦として公務を全うされ、今は、参議院議員です。長野県村井知事の笑顔がとても印象深く、長野の日本酒で楽しい会話になりました。現在は、任期を全うされ知事を引退。

8 北海道知事 高橋はるみ 氏

9 長野県知事 村井 仁 氏

2009年 12月発刊 EvahThink
富山県石井知事の一言に感動した私達。「知事の道を選んだのは私で単身赴任、私は、妻の生き方を尊重しているので、其々の生き方を大切にしています」との言葉に感動。そして、ご紹介頂いたのが「神奈川力」を掲げる神奈川県松沢知事です。現在は、参議院議員。著書に始動! 江戸城天守閣再建計画等があります。

10 富山県知事 石井隆一 氏

11 神奈川県知事 松沢成文 氏

2010年 7月発刊 Evahthink
松沢知事の携帯から聞こえて来た声は、千葉県森田知事でした。おれは男だ!の通りで、直前に県庁に大勢のマスコミ。しかし、森田知事は「有馬さんとの約束が優先です。」とマスコミを待たせたままじっかり対談の時間を頂いた程。「約束は守ります。」の言葉に感動。驚かったのは、山梨県横内知事。一緒にワインを頂きながらの対談でした。2期8年務め勇退されましたが、本年4月ご逝去されました。謹んで心より御冥福を御祈り申し上げます。横内知事より驚かったのは、青森県三村知事。(旧)赤坂プリンスホテルで対談。そこで、「青森県を逆さにすると鹿児島県になるんですよ」と言われ、地図で見てビックリ!!本当でした。そして、バトンは鹿児島県伊藤知事へ繋がりました。文旦飴が鹿児島とは知らなかった私は感動。それと、通常は厳しい伊藤知事の笑顔に職員の方から喜びの声を頂きました。

12 千葉県知事 森田健作 氏

13 山梨県知事 横内正明 氏

15 鹿児島県知事 伊藤祐一郎 氏

14 青森県知事 三村申吾 氏

2010年 9月発刊 Evahthink
同じ九州繋がりから熊本県蒲島知事へバトンタッチ。熊本の文旦を頂きながら、お土産に熊本の焼酎「川辺」と著書「逆境の中にこそ夢がある」を頂き、帰りの新幹線でじっかり読んだ記憶があります。電話は、兵庫県井戸知事に繋がりテーブルに沢山の地域の食材が並べられました。「そばめし」を教えていただき長田区へ阪神大震災から復興した話から様々な学びがありました。

16 熊本県知事 蒲島郁夫 氏

17 兵庫県知事 井戸敏三 氏

2011年 2月発刊 EvahThink
眼鏡と恐竜で有名な福井県西川知事との対談は東京事務所で、梅干しを一緒に試食しながらの会話はお互い楽いましたね。西川知事からは、山形県吉村知事へ、アンテナショップで3 時間程の対談。「つや姫」のリゾットを頂き「ただ茶豆」の焼酎他、沢山の山形県の魅力をお話し頂きました。

18 福井県知事 西川一誠 氏

19 山形県知事 吉村美栄子 氏

2011年 10月発刊 EvahThink
東日本大震災後に発行した際は、「もったいない」をキャッチフレーズに滋賀県嘉田知事就任。滋賀県の「ふな寿司」を一緒に頂きました。現在は、参議院議員。静岡県川勝知事は、その頃富士山を世界遺産に!!を目指すなか、現実に世界遺産登録となりました。熱い想いは必ず実現しますね。

20 滋賀県知事 嘉田由紀子 氏

21 静岡県知事 川勝平太 氏

エヴァプレス　エヴァシンク

全国知事 2012▶2017 リレー対談の歴史

※文注及び地図上の番号について
●色は「防災・災害特集」、●色は「地域の宝達」で取材した順番です。

東日本大震災後は、テーマに防災を取り入れました。それぞれの知事が防災対策について、動画でも発信して下さいました。既に、その頃のお話が実現している自治体もあります。そして今、日本列島は新型コロナ感染対応と、自然災害の巨大化に向けて様々な検討が進められています。地域活性化と防災対策は両輪である事を、トップの皆さんは考えられています。2012年～2017年にかけて対談させて頂いた知事の皆様方です。

知事対談映像アーカイブ
エヴァシンク
チャンネルも
ご覧ください

5 福岡県知事 小川洋 氏

福岡県小川知事との対談は、とても印象深く、小川知事の笑顔と一つひとつの商品に対する説明が良くて、そのまま番組にしたいと思った程でした。また、職員の方々の準備がとても素晴らしかったです。食から文化含め、多くの魅力を発信して下さいました。

1 長崎県知事 中村法道 氏

長崎県中村知事とは、御縁有り2回目の対談でした。私も長崎出身という事で、話題に花が咲き中村知事のこの笑顔です。故郷を大切に想う気持ちは、首長みな同じとつくづく思います。

6 宮崎県知事 河野俊嗣 氏

宮崎県河野知事との対談は、宮崎県庁でした。最初におっしゃったのが、「前知事の東国原知事の時には、年間40万人の人達が県庁を訪れていましたが、今は、4万人」とユーモアたっぷり。「これからはキャピアに力を入れます!! 別の形で宮崎県をPRしていきます」とお話されました。また、宮崎は新燃岳等の噴火もありますが、自然から様々な恵みを頂き温泉もある。だからこそ、自然との共存が大切だと。自然との共存ですね。

エヴァシンクで一番の人気コーナー『全国知事リレー対談』。地域の宝達から、防災対応迄これからも継続していきます。そして、いよいよ次回から新たに知事対談がスタートします。新型コロナ対策や自然災害対応として何が必要かもあわせて、みなさんにお伝えして行ければと思っています。また、書籍としても続編が…
楽しみにお待ち下さい!!

2 高知県知事 尾崎正直 氏

当時高知県尾崎知事とは、東京事務所で対談。部屋には坂本龍馬が飾ってありました。南海トラフ巨大地震対応として、様々なお話をして頂きました。あの頃、新しい発想の転換が必要だと。その発想により、安心して訪れられる高知県であるように進めて行くと語って頂きました。

4 秋田県知事 佐竹敬久 氏

取材当日、秋田県は土石流災害で災害対策本部が設置され、様々な対応をされていた日となりました。秋田県佐竹知事は、そのままの姿でご対応下さいました。動画でもお話されていますが、「これからは、地域を越えた災害対応が重要」とおっしゃられており、巨大化する災害は共に助け合う事が大事だと。とても貴重なメッセージです。

4 長野県知事 阿部守一 氏

長野県阿部知事とは、銀座のアンテナショップで対談。地域の食材含め長野県の観光を発信して頂きました。今、日本の中央に位置する長野県だからこその魅力と地域防災の重要さを考えられていました。

8 広島県知事 湯崎英彦 氏

広島県湯崎知事とは、広島県庁で対談させて頂きました。広島といえばお好み焼きが一番に浮かんだ私(笑)ですが、知事は「平清盛」と力強くおっしゃいました。また、日本酒も豊富なところですね。広島の魅力も動画でどうぞ!!

9 和歌山県知事 仁坂吉伸 氏

和歌山県仁坂知事から、和歌山県の魅力についてパンダの手袋をして対談。更に発酵食品は和歌山が発祥の地である事。そして、これからは南海トラフ巨大地震に備え、様々な取組をしている和歌山県。是非、動画で御覧下さい。

3 埼玉県知事 上田清司 氏

当時埼玉県上田知事との対談は、知事室に様々なデータが掲示されており、常に分析されながら展開されていました。このときは、私が日本酒が好きと言う事で、埼玉県の地酒を試飲させて頂きました。(埼玉は地酒の豊富なところです)

1 岩手県知事 達増拓也 氏

岩手県達増知事は、東日本大震災を経験し多くの方々からの支援を受けた事に深く感謝され、これからは岩手県から支援させて欲しいとおっしゃっていました。

衆議院議員 石破茂 氏

地方創生担当大臣の時に石破大臣と対談させて頂きました。前編の「日本の知事21」には、メッセージも頂いています。鳥取県ご出身で、とても地元愛の深い方でした。

7 沖縄県知事 仲井真弘多 氏

当時沖縄県仲井眞知事との対談では、テレビで拝見する感じと違い、とても朗らかで気さくな知事でした。そして、沖縄の名産品がテーブルいっぱい!!ひとつひとつをご説明頂きました。

3 三重県知事 鈴木英敬 氏

三重県鈴木知事は、本当にお若くパワーある方で、当時、ウェディングについて、実現したい事があります。とおっしゃっていた事が、既に実現してました。是非、動画を御覧下さい。合わせて、防災に関しては、「防災の日常化」を常に意識して、特別な事ではなく、生活の中に組み入れる事を重要視されていました。私も大いに納得です。

2 奈良県知事 荒井正吾 氏

奈良県荒井知事との対談は、法被をきて遷都君と一緒に!! 奈良県は様々な展開を海外に向けて行われており眼から鱗でした。また、奈良にうまいものあり !奈良県の「柿」の美味しさにびっくり。あと、奈良県は日本酒の発祥の地ですね。奈良県の魅力は動画でどうぞ!!

宮城県

女川 石巻 南三陸 気仙沼

『黄金海道』

地域を越えた!!
地域活性化と災害支援

『黄金海道』チームとの出会い

今から、9年前エヴァシンク編集室に一通のメールが届いた。それは、石巻市観光課の佐藤課長からだった。地域を越えた4つの広域自治体で『みやぎ三陸黄金海道』という観光活性化事業を取り組んでいるので取材して欲しいとの事だった。即、連絡をとり石巻市役所から秋山さんが東京に……。編集室のスタジオで様々な話をして、取材日が決定。現地に到着し、2号に渡って掲載し発行となった。

その後、モニターツアー含め、一緒に様々な企画をし、2011年3月9日石巻市役所秋山さんと電話で打合せ中に、東日本大震災の前兆となる地震が発生。「朱美ちゃん、今石巻揺れているから、もうすぐ東京も揺れるよ」との会話。多少の津波は観測されましたが、幸い大きな災害にはならずホッとした。

そして、2011年3月11日午後13時40分、南三陸町高橋さんと電話打合せ中、さらに、14時48分長崎県広報課と話をしている時に東京が大きく揺れた。

エヴァシンク
vol.11 に掲載された
モニターツアーの紙面

テレビを付けた。これが東日本大震災……。長崎県広報課と話している私の受話器は飛び、スタッフと共にパソコンを押さえ、揺れに耐えた。

そこからだった。テレビから流れる映像はこの世の出来事ではないという程の衝撃的な映像の連続で、読者からの問合せが相次いだのである。

私のブログは、一時間に200万アクセスを超えトップになった。読者がブログで掲載されていた人達の安否情報を得る為のアクセスだったと思う。様々な情報を探すなかで、其々の安否が確認とれたのは災害発生5日後位だったと思う。

その次は、なんとか現地に食材（野菜類）を届けたいとの思いで、3月26日高速道路開通の連絡を受けると、通行許可を得て、友達と3人で朝陽が昇る前に東京を出発。コンビニで野菜を購入しクーラーBOXに詰め車を走らせ現地入り。途中から潮の匂いが漂う中、津波の引いた後の状況の中に辿り着き、私達は、石巻市役所に向かう。

2011年3月26日被災地に向かう時、
遠くに見える太陽が切ない……。

鈴木さんの安否を確認出来た喜びもつかの間、市役所のフロアーには被災者が避難生活をしていた。精神的に追い詰められた人々の中で、災害発生後、自宅に戻る事も出来ず家族の安否も確認出来ないまま公務に徹していた職員の姿に触れた時、「まるで普賢岳噴火災害と同じ、この状況はなんとかしなければ……」と思った。

その後、私達は、秋山さんと会う為に支援物資の分別と配布を自衛隊と共に管理している総合運動公園に向かう。壮大なグラウンドには大きなテントがいくつも作られ、必要な物資が仕分けられ、更にそこから、必要な避難場所へ必要な物資を届ける仕組みが作られていた。既に、被災後二週間経過していた。その後秋山さんとの再会を果たし、次に向かったのは南三陸町。途中取材先だった『ホテル観洋』へ立ち寄り無事を喜び、そのまま南三陸アリーナに到着。既に避難所として、全てのフロアーに被災された方々が身を寄せていた。私は、佐藤町長と高橋さんを探し、無事を確認した。それぞれが気丈に振る舞い、なんとかその辛い状況を受け止め、公務員としての責務を果たす事を心して取り組む姿に私達が涙してしまった。申し訳ない。

その数年後、当時の壮絶な状況を聴く事になる。

その後、南三陸を後にし、東京に一旦戻る事になるのだが、不謹慎ではあるが、南三陸の海岸通の無き道を走らせ、途中空を見上げた時、あまりの星空の美しさに驚き思わず手を合わせた。この美しさは何を意味しているのか。多くの行方不明になっている人達の魂が町を照らしているのではないかと……。

私たちは、再度被災地を訪れ気仙沼・女川まで向かった。すると、気仙沼の体育館でなんと医療チームの方々が、支援物資の仕分けをしていた。えっ？何故？そしてこの山のような段ボールは……。驚きと共に、20年前の被災地対応と全く変わっていない事に衝撃を受け、これが繰り返されているのであれば、ここに新たな仕組みを構築する必要があると考え、私の頭の中にG72の仕組みが一気に描き出された。ここで『G72災害支援システム』は誕生した。

そして、翌年にはあの頃のメンバー全員が、復興を願い上京。銀座で復興イベントを開催する。もちろん私達も駆けつけ、共に再会を喜び復興へと向けて可能な限りの支援を誓う。

女川・石巻・南三陸・気仙沼のメンバーが
再会。復興に向けてスタートした。

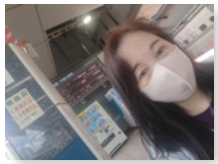
震災から9年目の絆

東日本大震災が発生し、今年で9年。2021年3月11日には10年を迎える。

この10年を辿り、私達は、8月1日(土)～2日(日)石巻市と南三陸町を訪れ、災害を経験し復興に向けて辿り着いた今について語る時間に恵まれた。

私は、午前中の新幹線で仙台に向かう。新型コロナ感染対策の一環で全てがマスク対応。こんな日が日本だけでなく世界中の人類に訪れるとは考えたくなかった事が現実となった。この現実も受け止めて前進する為に、広域連携として活動していた黄金海道のメンバーとの再会を楽しみに向かった。

2020年8月1日東京駅は人もまばら(これも貴重ですね)。



メンバーは、石巻市役所から秋山光義さん(当時、観光課➡災害時 災対産業部)➡現在は、定年を迎え再び産業部観光課で活躍中。同じく鈴木公美さん(当時、観光課➡災害時 災対産業部)➡市長秘書を経て現在、福祉部市民相談・虐待防止センター所長として活躍中。そして、南三陸町より高橋一清さん(当時、商工観光課➡災害時 避難対策係)➡総務課長として町長を支える立場として活躍中。まずは石巻市で大川小学校跡地に向かい手を合わせた。行政裁判に至る事となったが、その経緯、そしてその教訓を今後に活かさなければならない。その為には、何が必要なのかを話す中、私達は南三陸町に向かう。

大川小学校被災現場では、自然災害が招く多くの問題を考える事となる。

南三陸さんさん商店街で高橋さんと合流し、仮設商店街の中でどうしても見たかった当時の写真を見学。大津波の中、防災庁舎の鉄塔につかまり恐怖と闘う一方で、職員仲間が津波に飲み込まれ流される状況が眼に焼き付く。一枚の写真は、災害直後、そしてその後の様々な人間関係や、人々の心理状況に大きな意味を持ち、多くの事を投げかけている。

当時の事を、高橋さんより説明を受けるが、何度聴いても涙が溢れてくる。

あれから、10年を迎えようとしている今、町は復興に向けて動きだしていた。しかし、10年は長い。それぞれが歳を重ねているのを実感せざるを得ない。

南三陸さんさん商店街で再会を喜び。

◆南三陸さんさん商店街で公開されていた写真

南三陸さんさん商店街に掲示された、佐良スタジオ代表の佐藤信一さんの写真が多くの事を伝えている。当時のメディアに流れていない様子を見ることができるため、ぜひ、皆さんも訪れて、そこで見た写真を教訓に次の災害対応に活かして欲しい。

撮影された時間は、911 15:35 東日本大震災発生後一時間も経たない間に……。防災対策庁舎には40名程の職員が存在していたが、姿が確認出来るのは数名のみ。

911 15:47 雪降る中、災害発生1時間後生き延びた職員の姿が……。

『黄金海道』メンバーが語る。

―これからの地域活性化と災害の経験を後世に継ぐために―

その後、取材で何度もお世話になり、被災後は避難者の受入施設として対応し、その後も復興に尽力されている追分温泉で当時の事、そしてこれからに向けて話した。

震災前に地域を越えた自治体同士の取り組みとして生まれた「黄金海道」。あの災害を乗り越えて当時のメンバーが再会した。其々新たな役職につく中で、これからの後世に引継ぐ為に自らの経験をもとに、赤裸々に語り合う。

秋山…10年前になってしまうけど、まさかの出来事で色んな事があり過ぎたよね。

鈴木…そうですよね。誰が悪い訳でもないけれど、気持ちを何処に持っていって良いのかも判断出来ず、精神的に追い込まれてしまった方が多くいました。

高橋…あの頃、避難所で自衛隊がお風呂を支援してくれたんだよね。しかし、そこに被災者をバスで案内しなければならないんだけど、その時に一台のバスが急遽動かせなくなってしまった事があってさ。楽しみにしていた被災者がお風呂に入れなくなったのさ。そうなると、みんな楽しみにしていた事だから、怒りが込み上げるのさ。その気持ちもとてもわかるのよ。それでお詫びをするのだけど許して貰えなかった事があって、土下座した事があったのさ。

有馬…えっ！そんな事が？

高橋…そうだよ。でもね、俺は思ったのよ。公僕としての責任は、人に頭を下げるのではない。俺が頭を下げるのは、これからの地域の未来の為に、この町を護り成長させる為であれば、どれだけでも土下座する事は構わないとね。

参加メンバー／左から秋山さん、鈴木さん、高橋さん（進行 有馬）懐かしいメンバーと共に、10年前に戻り語り始める

有馬…素晴らしい！確かに、災害時には人の気持ちは正常な状態ではなくなるし、それぞれ背景が違うから、誰も責める事は出来ないのよね。

鈴木…私達は、公務員として何としても住民を護り地域を護って行くのが役割と思い精一杯の事をやっているのだけど、被災者から罵声や様々な理不尽な事を言われると流石に辛かったですね。

高橋…そうだよね。ただ、俺は考えたんだよ。幸い、自宅が流失せず、家族が皆無事だったからこそ、様々な事が動けたんだけね。もし、そうでなかったら、同じ事を考えられたかと言えば、自信はないんだよね。

秋山…確かにね。私も、物資の仕分けに入り、その後、住民の仮設住宅から復興住宅を含めて、地域づくりを担当する事になったけど、被災者の気持ちは良くわかるんだよね。当然、私も被災者だから。でも、そこを理解した中で、公共的に被災者の住宅を確保する為に様々な手を尽くすけど、なかなか受入れてもらえなかったり、住民の考え方も当然ながら様々あるんだけどね。調整していくのは大変だったね。

高橋…今、この自然災害は、自分たちの地域だけで対応出来て、復興に向けて進めて行ける時代じゃなくなったんだよね。

有馬…私も、絶対にそう思う。災害規模は毎年巨大化しているし、広域で何事も対応しなければならない時代は確実にきていると思う。ただ、自治体は予算の事とかで、これまでは自分たちの地域は地域で護るが前提だけど、それぞれで連携をするなかで、対応する必要があると私は思っていますね。

秋山…そうだね。縦割り社会のなかだけど、意識を変えて行く事は大切で、それを考えると『黄金海道』は、4つの自治体が連携して観光集客の取り組みをしていたから、災害に関しても連携して支援体制を構築する事は重要だと思うね。

鈴木…はい。私も同じですね。地域を越えて物事を考えないと、これから様々な事に対応出来ないですね。これは、観光も、災害も、福祉に関しても…広域連携がお互いにとってもプラスになると思います。

有馬…自治体同士で競い合うのではなく、あっ、そういう時も必要ですが（笑）まずは、相乗効果で、お互いを尊重し合う中で、災害対応も出来る事が望ましいですね。この東日本大震災の教訓から生まれる仕組みは、必ず後世に引継がなければならないと思っています。
―話は尽きる事なく、深夜まで続いた。

※高橋さんのポロシャツ左腕には、「海とともに生きる」と刺繍がされていた。津波で大きな被害を受けたけど、それでも海と共に生きて来て、海の恩恵を受けながら町が活かされて来た。これからも、その想いは変わらないと……。

高橋さんは公務のため、先に帰ることになりましたが、朝食をすませた私達は、追分温泉のご主人と共に記念の一枚を撮影。新型コロナ感染を気にし、東京からの宿泊を避けたいと思われるのではないかと考えていましたが、全く気にする事なく、コロナ対策をする中、みんな地域も関係なく平等だとおっしゃり受入れて下さった事に、感謝です。（有馬）

座談会出席の3名から、今後についてのコメントをいただきました。

石巻市 秋山光義さん

震災からの復興と今後の防災に向かって

世界中に衝撃が走ったあの日から9年5ヵ月、今私たちはコロナウイルスという新たな脅威に脅かされている。東日本大震災の死者約3，600人の最大被災地・いしのまきは水も食料も電気もない瓦礫の街から多くの皆様のご支援を励みに毎年少しずつ復興し、未来への街づくりを進めている。

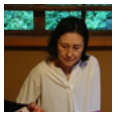
時代とともに変化する新たな災害から生き残るため、避難ルートの確認と物資の備えが最重要であり、今後は観光と食と防災をセットした「備食ツーリズム」を発信したい。

南三陸町 高橋一清さん

経験を日本の災害に活かしたい！

覚悟していた事が起きた3・11。必死になり南三陸町の職員として務め復興を目指し間もなく10年。これまで、多くの自治体が支援に入ってくれた事にとても感謝の気持ちでいっぱい。これからこの経験を活かし、日本中の災害対応に役に立てる事を目指したい。

石巻市 鈴木公美さん



「震災前と今」新たな次代に向かって!!

風光明媚な我がまち「石巻市」を全国へPRするため、"笑顔と心でおもてなし"をモットーに、自分も楽しみながら観光振興事業にあたっていましたが、東日本大震災は、尊い市民の生命と幸せな暮らし、そして、石巻の観光資源を一瞬にして奪い、私たちの日常生活を一変させました。

当時、救援物資の調達・配分の担当でしたが、1日1個のおにぎりを2人で分けて食べる日が続きました。この体験は、のちに改正された石巻市防災基本条例の前文にも記載されることになります。

「不安で途方に暮れ、希望を失いかけたとき、私たちは必ず復興できると信じ、水や食料を分かちあい、励ましあい、一時も人のやさしさや思いやりを忘れることなく、苦難の日々を乗り越えました。」～石巻市防災基本条例抜粋～

災害の恐怖からの不安を解消するためには、災害発生後3日間（72時間）の対応がいかに重要であるか、身をもって強く体感しました。

深い傷跡と悲しみの記憶を残すことになった大震災から9年が経過し、観光施設やハード面の整備は進んでいますが、震災で傷ついた心の復興には、まだまだ時間を要しています。

現在、私は福祉部に配属され、主にDV被害者の支援や高齢者虐待・児童虐待等の防止に努めています。震災の影響で住まいの環境や家族構成の変化により、経済的困窮や精神的疾患、抑うつ状態など複合的な要因を抱えているケースが多く、震災で心に大きな傷をおった被災者に対し、常に心に寄り添い、手を差し伸べる支援が必要です。震災前の業務とは全く違った分野で仕事をしていますが、災害も虐待も命に関わる危険性があります。災害には「備え」、虐待には「早期発見」が必要です。日本の将来を担う大切な子どもたちが虐待によって命を落とすことがないように、日々緊張感をもって業務に取り組んでいます。

コロナ、地震、水害：試練続きの世の中ではありますが、苦しい時、辛い時こそ"笑顔"で乗り切ることが大切だと確信しています。なぜなら、笑顔は周りの人を幸せにする力があるからです。こんな状況でも日頃から意識して行っていることが、"笑顔"と"笑声"の対応です。そのスタンスは、震災前と後で全く変わりません。"笑顔"は、お金のかからない住民サービスなのですから。

GROW by GLOW

全国取材30年の歴史から

すべてはここから始まった

出典：島原市

1991年、代表取締役有馬朱美の故郷である長崎県雲仙普賢岳が6月3日大噴火。大火砕流が発生し、死者43名という、多大な人的・物的被害をもたらした。この災害を報道で知った有馬は、当時勤務していた福岡から急遽島原に帰郷。しかし、火山灰で覆われる町を、上空をヘリが飛び交い、地上では装甲車が行き交う被災直後の島原は「まるで戦場のようだった」（有馬談）。

故郷の被害の大きさに大きなショックを受けつつも、一度は福岡に戻ったが災害が長期化する中で家族の入院を機に島原に戻る。そこで、さらなる大規模土石流の直撃を受ける中を有馬は車で逃げ切り、命拾いをした。それが町の最後となった。実家は土石に埋まりさらなる避難生活が始まった。

しかし、避難生活の中で、「このままでは島原が沈む。このままではダメだ」という気持ちが日に日に増していき、島原復興に向かって走り出すことになった。

被災した故郷・島原で独立 復興を目指して活動を開始

災害の真っ只中、仮設住宅生活の中で、リサイクルショップと企画事務所を同時スタート。島原の情報を配信する為に情報誌「ウエディングストーリー」後に「エヴァプレス」→「エヴァシンク」と名称変更）を創刊し、復興への活動を開始した。島原のモノと情報の流通を一翼を担う一方で、被災により人が消えた商店街に人を呼び戻すため、商店街でのローカル放送局を考案。同年、商店街放送局「スタジオEye」を開局した。地元の学校の放送部に番組を制作・出演してもらうなどのアイデアを次々と実現させ、島原の復興に邁進していく。

イベントやラジオ番組を通じて活動範囲を拡げ東京にも進出

「エヴァプレス」では、さまざまな地域情報を細かく拾い、読者へと発信していった。その一方で、エヴァプレスをFMラジオ番組としても展開。紙だけではなく、電波によっても、地域情報を広く伝えることに成功した。これまで、個人事業としての活動していたが、正式に法人化を決め2004年有限会社エヴァプレス設立。結果、事業の拡大とともに「エヴァプレス」は飛行機や高速バスの機内、車内誌としても採用されることとなり、九州で多くの方々に読まれる情報誌へと成長させて頂いた。

2008年、「エヴァプレス」を「エヴァシンク」に改め、全国15，000か所以上、全国全ての自治体を中心に計10万部を配布。その中で、都道府県知事との対談を実現し、知事同士の繋がりからリレー形式で次々と対談を進める。この対談から、日本の地方に眠る魅力を伝える一方で、地方が抱える問題をあぶりだした。

また、自治体職員が出演するインターネット放送「スタジオEye」を都道県会館に開設するなど、日本の地方創生をテーマに活動。この活動が、2016年の当社設立の基盤となった。また2016年に発生した熊本地震を切っ掛けに、地域活性化と災害支援は両輪でなければならない、との考えを深めた。そこで、大樹生命（旧三井生命）トーマツ他の支援を受けて、2012年に発明した災害支援システム「G72」の本格的立ち上げに取り組み、2018年4月に事業展開開始。日本経済新聞をはじめ、その後、数々の媒体に紹介されている。

自治体との取組み含め活動の範囲が広がってきたことから、2005年に本社を東京に移転。活動の舞台を全国へと移すスタートラインとなった。そして、2006年、総合プロデュースを行う株式会社サーキュレーション・プロデュースを設立し、代表取締役に就任した。

全国都道府県知事との リレー対談をスタート 日本の地方創生に新たに挑む

- 1991 雲仙普賢岳の噴火により、大きな被害が発生
- 1992 ◎情報誌「ウエディングストーリー」創刊 ◎「ウエディングストーリー」を「エヴァプレス」に名称変更 ◎商店街放送局「スタジオEye」開局
- 2000 ◎FMラジオ番組「エヴァプレス」放送開始 ◎オリエンタルエアブリッジの機内誌、高速バス九州号社内誌に採用
- 2004 衛エヴァプレス設立
- 2005 エヴァプレス本社を東京都中央区に移転
- 2006 ㈱サーキュレーション・プロデュース設立
- 2008 ◎エヴァプレスを「エヴァシンク」に名称変更 ◎全国知事リレー対談スタート ◎インターネット放送「evathink」開始
- 2012 災害支援事業 ㈱ミューチュアル エイド・セオリー設立
- 2015 知事リレー対談「日本の知事21」出版
- 2016 GROW by GLOW 株式会社 設立
- 2017 熊本地震を機に災害支援事業「Guardian72」の立ち上げに全力を注ぐ
- 2018 2018年5月 一般社団法人防災支援システム研究所設立

よりどころ

書斎システム『朱（あかり）』とは…

これからの新たな生き方のひとつ
全国書斎システム『朱』あかり
ご自宅・職場と別に、あなたの空間を・・・
執筆活動をはじめ、様々な活用方法があります。
新型コロナウイルスによる、
様々な働き方のひとつとして、
全国の登録宿泊施設から
好きなお部屋を月極契約し、
貴方の空間を確保する事が可能となります。
また、お部屋は貴方だけの空間となりますので、
好きな時に宿泊できるのと合わせて
第二の避難場所としてもご活用下さい。
更に、書斎会員の方々には、
地域の特別なおもてなしを楽しむ事ができます。
自分だけの書斎・・・
宿泊施設の有効活用により
相乗効果が生まれ
新たな「よりどころ」が誕生します。

全国書斎システム『朱』あかり
代表　有馬朱美

新型コロナウイルス感染に伴い、在宅勤務という新たな働くスタイルが誕生しました。これまで会社に行く事が当たり前と思っていた事が、当たり前でなくなり、自宅が仕事場となる。更に、Ｚｏｏｍを含め多くのテレビ会議が中心となり働き方は変わり社会状況は大きく変貌しました。しかし、自宅で仕事が成り立つ場合と、そうでない場合。もともと自宅に書斎というスペースがある場合は成り立つのでしょうが、なかなか仕事の場所を確保するのが厳しいのが現実。夫婦共働きで、二人共に在宅勤務。Ｚｏｏｍ打合せも同時だと、お互いの声を意識してしまう事や、更に子ども達も自宅となると、状況はご想像の通りとなります。そこで誕生したのが書斎システム『朱』あかりです。

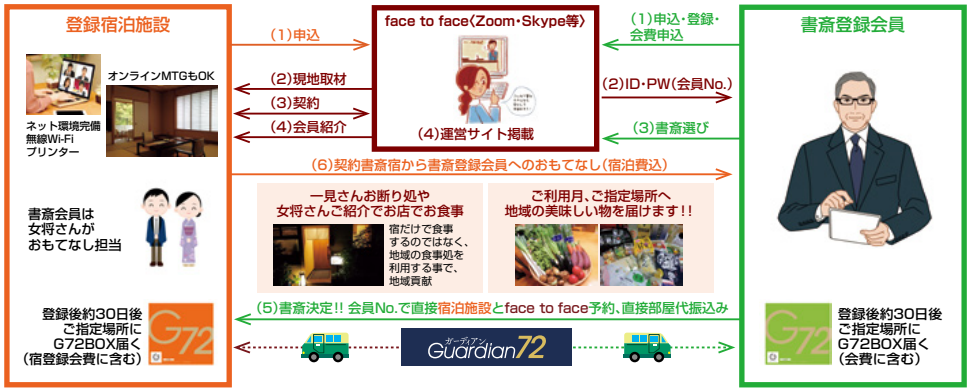
実は6年程前の事、客室数20部屋程本館・新館の造りで100年程の歴史のある老舗宿の女将さんから相談を受けた事が始まり。安定した状況ではなく、事前に予約が入っていれば対応は出来ますが、突然の来客が多く、従業員の雇用が厳しい為、緊急は近所の方にパートとして手伝ってもらいながら、接客。お掃除、買出し、調理場も対応しながら女将さんは休む間もない。全てが片付くのは深夜1時程。そこから入浴をすませ、浴室の清掃で一日が終了。既に2時半。翌朝は、朝食の準備のため早朝5時起き。睡眠時間は平均2時間半という過酷さ。そして、ついに体調崩されたり怪我されたり……。その現状を見る中で、提案したのが、お部屋を書斎として月極貸し出しすることでした。

20部屋の中の一部を書斎として月極で貸出す事で、毎月安定収入を得る事が可能となります。利用者は行っても行かなくとも書斎と言う空間に対して対価を払います。例えば利用者は、生きる中で、様々な悩みを抱える場合や、人に関わる事なく自分専用の時間を過ごせる「よりどころ」を手に入れてください。

世界初!! 全国書斎システム『朱』とは、どんな仕組なのか

ホテル・旅館の客室を自分専用の書斎として活用　大規模災害への『備え』にも

写真はすべて、イメージです。



〈登録宿泊施設・書斎登録会員募集中〉http://www.2020akari.jp/

『朱』利用会員第一号 黒田さんに聞きました!

書斎システム『朱』の登録者
黒田敦史さん

今回は、書斎を利用する方の中から、登録№1の黒田敦史さんをご紹介します。黒田さんは、経営者として様々な企業支援を中心に複数の法人を自ら持たれ、多くのベンチャーを支援されています。

――黒田さん、今回はインタビューを受けて頂き誠に有り難うございます。早速ですが、今回の書斎システムに登録頂いた理由をお聞かせ頂けますか?

私は以前から、各地域に自分の専用の部屋を持ちたいと思っていました。それは、時間の使い方として、季節に合わせて場所を選び好きな時に、好きな場所で仕事も含めて過ごせたらと思っていたんですね。

――そうなんですね。それは、どんな時にそう思ったりされていたんですか?

はい。私は経営者として日々いろんな事を考えています。また、多くの起業家を支援したり、考える事が仕事です。しかし、考えると言う事は、デスクに向かっていれば良いかと言えば、全く違います。では人と会えばそれで良いかと言えばそれでもなく、心地好い環境に自分の身を置き、いつも新鮮な気持ちで物事を考え判断したいと考えていました。それで、旅行したり様々な環境を作ったりしていたのですが、やはり自分の書斎を欲しいと思うようになったのです。そんな時に、今回の「朱」あかりの話を伺い、これは良い!!と思って登録させて頂きました。

――そうでしたか! ありがとうございます。今、様々な宿泊施設をいろんな方法で活用するビジネスが増えていますね。私は、利用者も自分の生活や生き方、過ごし方に合わせて選ぶ事が出来て、また、提供する宿泊施設もその宿の良さを活かした特徴ある部屋として提供頂き、それが繋がる事で相乗効果になると考えているんです。みんな好みがありますからねっ。

そう、そうです。お部屋も好みがあるし、細かく言うと和室か洋室か、お布団は固めか柔らかめか、山の避暑地が良いか、海に近い方がいいか、更に言うと季節でお部屋を選びたいなとも思うんですよ。4月は春の香りを求めて桜満開の宿で、5月は遅桜の青森だったり、更には、6月は夏の北海道とか……。これが定額で行っても行かなくても、自分専用の部屋があると考えるだけで気持ちは違いますよね。

――そうですね。自由に選べますから、自分に合った書斎を選び、もしその宿や地域を気に入れば、次は長期で滞在し、末は移住も楽しいのかもしれませんよ。その間に、地域の方々と知り合いになり、自分の第二の住まい探しの選択肢のひとつになるかもしれませんね。

それもいいですね。もっと言えば、企業の福利厚生として会社が契約してくれると、社員としても活用方法がありますね。以前は保養所が盛んでしたが、今は殆ど姿を消していますからね。

――はい。仰る通りで、今企業契約の声も頂いていますね。在宅勤務が増えた事で、オフィスが不要になりはじめ、しかし、自宅ではやはり限界があるという事で、社員に色んな場所で、活躍して欲しいとの考えの経営者もいらっしゃいますよ。ネット環境等が整っていれば、対応は可能ですからね。

いいですね。私もそれは賛成ですね。個人として専用書斎を持つステイタス。そして、会社として社員の新たな働き方としての場所の提供。これもありですね。これから楽しみですね。

――全国にいくつも書斎を持ち、自分の『よりどころ』としての空間。宿泊施設にとっても安定収入が得られ、利用者も好きな場所を自分専用書斎として持つ事で、相乗効果になると考えていますから。

私も、しっかり活用させて頂きたいと思っています。これからが楽しみです。

――ありがとうございます!!

地域スタッフ募集（副業）

【募集内容】
募集エリア…47都道府県各1名
勤務地…各地域リモートにて対応
募集業務…撮影カメラマン（動画・スチール）・取材・営業・アシスタント1名
※詳細に関しては、Zoomにて説明会を開催します。
※開催予定日
⑴ 2020年9月26日（土）
15時～17時
⑵ 2020年9月26日（土）
19時～21時

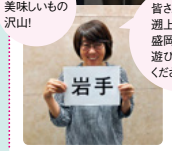
※参加ご希望の方は、希望日程・エリア・業種、ご住所・お名前・年齢・連絡先・メールアドレス・簡単なプロフィールと希望動機を明記の上、メールにてご応募下さい。
info@growbyglow.jp

（小笠原）今回、制作のお声がけいただき、HAND DESIGNとして、北東北の岩手から、全国に向けた情報誌の制作に携わらせていただきました。貴重な機会をいただきありがとうございます。竹村さんの表紙のビジュアルから、イメージが続くように心がけ、デザインを仕上げさせていただきました。楽しみながら読んでいただければ幸いです。

まんず、盛岡さ、おでってくなんせ。

有馬さんの行動力、尊敬します。

岩手も秋田も美味しいもの沢山!



皆さん、サケが遡上する街、盛岡へいつか遊びに来てください。

エヴァシンク&G72は、
全国各地の皆さんとつくりあげていきたい!
そう考えています。今回の制作チームは、
なんと盛岡から!! 頑張った編集チーム!!
それぞれ読者に向けてメッセージをお届けします。

●秋田県出身の竹村さん（写真左）はプロデューサーとして表紙のデザインを担当
●岩手県出身の小笠原さん（写真中央）は、制作全般を管理及びデザインも!!
●青森県出身の天間さん（写真右）は、デザイナーとして活躍!!
●岩手県出身の水野さんは進行管理として、ビシッと管理してくれました!!

編集室より

「本州一の広さを誇る岩手県。コロナ禍が落ち着いたら、ゆったりとした時間を過ごしにいらしてください」

定期読者募集

季刊誌として発行するエヴァシンク&G72は、定期購読が可能です。
※発行…季刊誌　9月／12月／3月／6月　※年間送料一口2,000円

ご希望の方は、右記をご記入の上、
編集室宛にメール（宛先　info@growbyglow.jp）で御申し込み下さい。
また、お友達へのプレゼントとしてもご利用下さい。

●記入内容／
申込者のお名前・住所・連絡先・年齢・申し込み部数
※お届け先が異なる場合は、お届け先住所・お名前・連絡先
●申し込みいただいたメールアドレス宛に振込先をご案内し、入金確認ののち、冊子をお送りいたします。

編集後記

8年振り復活!! またその時が来た!! と言う感じです。いつも発行したいとの想いは続いていたのですが、身体はひとつ。災害支援事業のインフラ構築に注力する事を選び、邁進しておりました。そして今、多くのメンバーに恵まれ、突然ですが発行するぞと決めて、入稿に追われながらでも制作できた事。リアルに打合せが出来ない中で、リモートでの編集会議。お盆を挟みながら、共に制作に協力してくれるメンバーに感謝です。

エヴァシンク編集室
企画・発行／GROWbyGLOW株式会社
発行人／編集長　有馬朱美
編集・制作／
株式会社サーキュレーション・プロデュース
エヴァシンク編集室
〒102-0082 東京都千代田区一番町4-5-606
http://www.growbyglow.jp
info@growbyglow.jp

●編集長おすすめのお店紹介！

東京都豊島区南大塚
漁師酒場・海亭

今回は、東京都豊島区南大塚にある『漁師酒場・海亭』。オーナーは素潜りで魚を捕る趣味が高じてお店を始められたとか。毎日全国から生きた魚が届きます。新鮮な魚と日本酒に、編集長・有馬もすっかり惚れ込んでいます! おススメは、煮魚（絶品!!）、鯵フライ、そして〆の『宇和島風鯛飯』! とにかく美味しいのです。ぜひ、皆さんにも味わって欲しく、オーナー河邉さんからお食事券をプレゼント提供いただきました。

東京都豊島区『漁師酒場・海亭』
ペアお食事券（5,000相当）　2名様

◆ご希望の方は、「読者プレゼント」と同様の方法でお申し込みください。

エヴァシンク編集室が発見した全国のステキなもの！
読者プレゼント

8年ぶりの読者プレゼントは編集長の好きな、様々なアイテムをご用意しました。下記内容を明記の上、ご応募下さい。

●応募の方法●

【必須事項】
住所・氏名・年齢・御連絡先（携帯）・ご希望のプレゼント番号1点（選ばれた理由をご記入頂ければ幸いです）。

【アンケート】
『エヴァシンク・Guardian72 其々から』
1 あなたにとっての宝とは？
2 取材して欲しい場所
3 新型コロナ感染影響により、一番変わった事は？
4 編集室にご要望があれば、ご自由に御書き下さい。

＜応募先＞
下記メールアドレスにて、ご応募ください。
info@growbyglow.jp

＜応募締切＞
2020年9月30日消印

5 プレジデント社『ゼロから理解するテクノロジー図鑑』 5名様

イラストで理解できる、テクノロジーに関する知識！ 人に聞きにくい事が、わかりやすく紹介されています。なかなか面白く、実用性の高い内容となっています！

6 石巻市観光グッズ 5名様

石巻観光に関するグッズが揃っていますよ。

3 赤ちゃん液体ミルク『アイクレオ』 1箱24本入り 5名様

今、様々な災害現場で活躍しているのが、液体ミルク。赤ちゃんの必需品です。保証期間が半年なので、当選されたら、日付を確認の上保管・ご利用下さい。災害備蓄としてとても助かるものだと思います。

4 G72BOX 3名様

G72より厳選されたひとり一箱対応の『G72BOX』です。災害時に活用する為のG72BOXシリアルNo.も付与されますので、アフターフォローを受ける事が可能です。

1 宮城県石巻市・津田海苔本舗『健康・磯の幸セット』 3名様

三陸産海産物を取り扱っている石巻市の津田海苔本舗より! 健康的な海の幸で、身も心も健康になりましょう!! 在宅勤務で疲れているあなた、何事も「食」からですね。

2 岩手県二戸市『南部美人 特別純米酒』 3名様

インターナショナルワインチャレンジ（IWC）2017において、『チャンピオンサケ』を獲得した、世界中で大人気の『南部美人特別純米酒』をお届けします。

7 牧野出版『ママ、ぼくがきめたことだから』 5名様

『ママ、ぼくがきめたことだから』（税込1,320円）/A5サイズ絵本（32ページ）。この世に生を受けて、今、私達は生かされています。そんな中で、突然の出来事が人生を一変させる事もあります。明日があるからとか、また次ね。という言葉が必ずという保証はありません。しかし、その全てを受入れて前に進む事。河原さんの絵本は、短い絵本の中に想いが込められています。

○著者の河原由美子さんより、読者の皆さんにメッセージが届きました。

「私の三男は可愛い盛りの3歳で、急性脳症という病気で亡くなりました。私が子どもを亡くしたあと、自分も子供を亡くしていると打ち明けてくれる方が多くいらっしゃいました。流産、死産など、タイミングは様々ですが、自分のせいで亡くなってしまった、今でも自分を責めている方が多いということを実感しました。

私も、同じように何度も自分を責めました。私たちは生まれてくる前、自分の人生を決めて生まれてくるといわれています。“もし子どもが初めから決めて生まれてきたとしたら、それはお母さんのせいではないのかもしれない”時が経ち、そんな考えにたどり着きました。

今悲しみの中にいるお母さんに、あなたのせいで子どもが亡くなったのではないですよと伝えたい。お子さんが亡くなっていても、楽しい人生を送ってもいいのですよと伝えたい。そんな気持ちが芽生え、絵本を作ることにしました。

絵本は悲しいものではなく、とても明るい前向きなものになりました。お子さんを亡くされたお母さんや大切な方を亡くされた方をはじめ、今生きているすべての方に、生きていること自体が奇跡で、日常に幸せが沢山あるということを絵本を通じてお伝え出来たら嬉しいです。

著者　河原由美子さん